

シブクソウ科 ニワトコ属

ソクズ (そくず)

Sambucus chinensis Lindl.

自生環境

林縁、道ばた など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



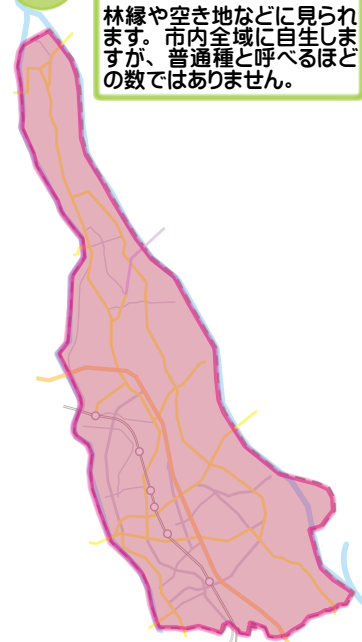
林縁や道ばたに生えるため、人間活動の影響を受けやすい傾向があります。また、このような場所は外来植物が繁茂しやすく、生育場所を奪われてしまう恐れがあります。

特徴

- ☆ 林の縁や空き地に生える多年草です。地下茎を横に伸ばしながら繁殖するため、しばしば群生します。ニワトコの仲間ですが、よく似ていますが、ニワトコが樹木なのに対してこちらは草です。そのためクサニワトコの別名もあります。
- ☆ ニワトコが春咲きなのに対し、ソクズは夏咲きです。草丈は1m 以上になり、7～8 月ごろ、茎の先に小さな白い花を多数咲かせます。花は直径 4mm ほど。花びらは 5 枚あるように見えますが根元で全部つながってしまいます (合弁花という)。
- ☆ 秋に、小さな丸い果実ができますが、結実率は低めです。果実の直径は 4mm ほどで、熟すとやや透きとおった朱色になります。蜜つぼは花の後もそのまま残りますが、黄色から緑色に変わり、目立たなくなります。

市内の分布状況

林縁や空き地などに見られます。市内全域に自生しますが、普通種と呼べるほどの数ではありません。

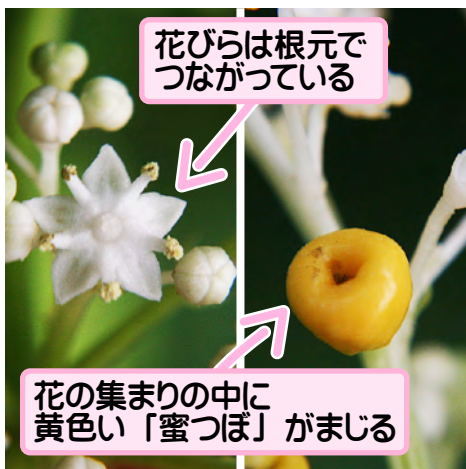


黄色い蜜壺がある

ソクズは夏になると小さな白い花をびっしりとつけますが、花自体は蜜を出しません。代わりに、花の集まりの中に、黄色く丸い壺 (専門的には腺体という) があり、その中に蜜が入っています。これにどの程度、虫を呼ぶ効果があるか不明ですが、アリはよく蜜を飲みに来ています。アリが蜜つぼを求めて花の集まりの上を歩き回ることによって、受粉が成り立っているのかもしれない。



ニワトコに似ているが、花は夏に咲く



花びらは根元でつながっている

花の集まりの中に黄色い「蜜つぼ」がまじる



果実はできにくい。たまにできる果実は丸くて朱色でイクラのよう



しょうお小葉

5～7枚の小葉が羽根のようにつく



茎の断面は歯車のようなかたち



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

